

薬剤処方監査時の行動分析

研究内容

薬物処方では、ヒヤリ・ハット事例の約57%は「確認を怠った」ことが要因です。医療事故にも繋がる可能性があるため、現在では薬剤師による**ダブルチェック**、**トリプルチェック**を行うことにより調剤事故、調剤過誤を未然に防いでいます。

本研究では、薬剤師の処方監査行動を分析するために、**InTeReaction-Recorder**を開発し、Webページ操作時の視線の動きやマウスの操作を記録しています。実際の処方監査行動時の視線などの動きを**InTeReaction-Player**を用いて分析することで、どのような処方監査行動を行っているかを確認します。

処方監査画面をITR-Playerで再生している様子

<処方画面>

投薬番号	62493	<院外>		指示医	中山太郎
日付	平成26年4月25日	診療科	精神科	他科受	
オーダー日付	平成26年4月25日	性別	男性	入力者	林
患者コード	73169	年齢	55歳	身長	170 cm
患者氏名	福山まさお	生年月日	1958年11月13日	体重	85 kg

Future eye line
未来の視線

薬剤情報提供	有	投薬管理	自己管理	一包化指示	無	粉碎指示	無	服薬指導	
<病名>	<感染/禁忌>	<患者コメント>	<コメント>	<検査結果>					

Eye icon
現在の注視点

患者プロフィール 検査画面 薬歴 個別コメント コメント

Past eye line
過去の視線

<前回> (平成 26年)

Rp	名称	量	単位	日数
1	ルボックス錠 25mg	2	錠	14日
	一日2回 朝・夕 食後			
	(医師:中山太郎) (発行施設:福山平成病院)			

<今回> (平成 26年)

Rp	名称	量	単位	日数
1	ルボックス錠 25mg	2	錠	14日
	一日2回 朝・夕 食後			
	(医師:中山太郎) (発行施設:福山平成病院)			

Mouse icon
マウスの位置



どうやって評価する？

- 被験者にとって見やすいか検証する
 - 注視点を追いかけてもらい
 - 未来過去線ありの有効性を検証する

研究の進め方

- ITR(InTeReaction)-Recorder の開発
 - Webページ, マウス・視線の動きを記録
- ITR(InTeReaction)-Player の開発
 - 未来の線・過去の線をつけることで
 - 再生時に注視点の位置特定を支援する

この研究による効果

- 薬剤師の注視点の動きが追いやすくなる
 - インタビューが容易になる
- 処方監査時の視線の動きが分かる
 - 処方監査時の一連の流れが明らかに
 - 熟練者の動きを初心者への教材に応用

担当 杉原 悠記(すぎはら ゆうき)

- ひとこと:何事も小さなことからコツコツと積み重ねていこう。